

高安小中学校区 わがまち推進計画

(第3期:令和5年度～令和10年度)

第3期わがまち推進計画の未来の地域像
～地域の文化と歴史を大切にした自然と人が共生するまち～

高安小中学校区まちづくり協議会では、第3期わがまち推進計画策定にあたり全戸向けのアンケートを行い1,320件の回答をいただきました。

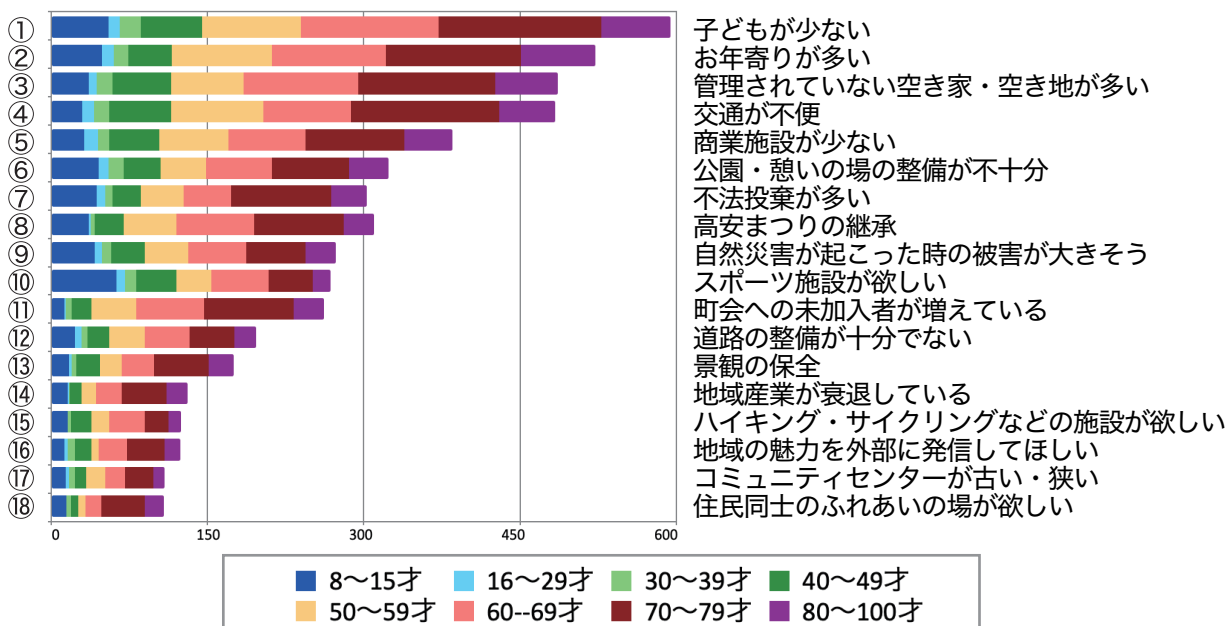
その結果を基に策定委員会で何度も議論を行い、住民の感じる地域の課題を解決するための4つの目標と5つの対策を策定いたしました。

当まち協ではこれからの6年間にわたり、この計画に沿って地域の課題解決に向け、ますます活発に活動を行ってまいります。

地域の皆様におかれましては、これからもまち協の活動へのご協力賜りますようお願いいたします。



アンケート結果 地域住民の心配ごとや関心ごと



高安小中学校区まちづくり協議会

アンケートから見た4つの目標

目標1 子どもとお年寄りの笑顔が溢れるまちづくり (子育て・青少年健全育成・老人福祉)

児童生徒数が極端に減少している高安小中学校区では、子育て世代の移住を促進することを強く期待しています。一方、高齢者の増加に伴って、お年寄りがいつも憩える場所が地域内に少ないという声が多くあがっています。

目標2 安全・安心なまちづくり (防犯・防災)

子ども見守り活動やお年寄りの救済を重視した自主防災活動をより促進するためには、対策2に示すように、学校の跡地グラウンドを常にご利用することによって、いざという時の自主防災の拠点となり、安全で安心なまちづくりにつながります。また、この利用方法を行政と住民が話し合い協働することで、その協力体制が子どもの見守り活動や地域の防犯活動がより活発なまちづくりにつながります。

目標3 自然・文化・歴史を大切にするまちづくり (環境・美化・祭り・エコミュージアム)

目標4 活気あふれるまちづくり (生活・産業・商業・交通)

活気あふれるまちづくりとは、お年寄りや子どもたちが仕事や遊びに健康で元気に活動している生活状態と地域の産業が活発に循環している状態のことであると考えています。

アンケートから見た5つの対策 (行動計画)

対策1 子育て世代の移住を促進するために、 以下条件を満たすような活動を実施する

子育て世代の移住促進のための5つポイント(条件)とは、

◆ 良い教育がなされていること

ここでいう良い教育とは、住民と一体化した学校教育が実現され、子どもたちが、自分たちが住んでいる地域に誇りを持ち、このまちをより良くしていきたいと思う気持ちを育む教育のことです。したがって、今以上に教育委員会や学校と情報交換を密にし、住民は学校教育を陰から支援することです。

*第3期高安小中学校区わがまち推進計画アンケート ●教育(子育て・青少年育成)に関する情報提供を参照



◆ 子どもが遊ぶ良い環境が維持されていること

いつでも自由にスポーツや遊びに行ける公園や地域図書館などが開設されているコミュニティセンターが充実していることです。

◆ 子育て支援体制が充実していること

公的及び私設されたコミュニティ子育て支援センターが充実していることです。

◆ 空き家・空き地が利用できること

行政と地域住民が協力して、空き家バンクを充実させるとともに、市街化調整区域を外すための慎重な協同作業を実施していくことです。



◆ 商業施設と交通機関の充実

服部川・郡川まちづくりで開発された商業施設の開設に伴って、その周辺地の開発を進めることによって、さらに便利な地域を目指すことです。また、地域内にできた商業施設や病院への移動手段として、乗り合いタクシーが充実しています。

対策2 子育て世代の親子やお年寄りがいつも憩える 安全で安心な防災公園を確保する

現在2か所の小学校跡地のグラウンドは、自主防災の避難所に指定されています。兼ねてより要望している内容に加え、これらのグラウンドを防災公園化し、日常から子育て世代の親子やお年寄りがいつも憩える安全で安心な防災公園として利用できるように、行政と市民が話し合い協働して実現させることを目指します。この活動は、子育て世代の親子にとっても、独居化するお年寄りにとっても、互いに助け合える絆づくりになり、さらに、地域の自主防災の拠点となることで安全で、安心なまちづくりの最重要課題になっていると考えられます。

対策3 地域の自然と文化と歴史を継承する方法として、 エコ・ミュージアム計画を推進する

高安地域では、エコ・ミュージアム※とは、その地域全体をミュージアム（歴史民俗資料館を中心にして）の延長した野外博物館としてとらえ、地元地域の人（お年寄り）が自分たちの歴史・文化・自然の魅力を話す語り部になり、地域を再認識し、子どもたちや地域外の人たちにもその良さを伝えます。この活動を実施することで、住民たちが地域の景観を大切にすること、自然環境を保全すること、国史跡や高安祭りや高安能、河内木綿の伝統文化の大切さを継承することで、よりよいまちづくりを推進することになります。

高安まちづくり協議会が主体となって、子どもたちを中心にした農免道路の清掃活動を実施します。

※エコ・ミュージアムとは「ある一定の文化圏を構成する地域の人びとの生活と、その自然、文化および社会環境の発展過程を史的に研究し、それらの遺産を現地において保存、育成、展示することによって、当該地域社会の発展に寄与することを目的とする野外博物館」と定義づけられています。

対策4 地場産業の活性化を促進すること

高安地域の地場産業は北高安では花卉栽培が盛んで、中高安では造園業が盛んですが、現在その後継者不足がみられています。一方、自給自足のために栽培されていた野菜づくりが多いなか、時代の流れに伴って食の自給化促進のために、農家を目指す若者が増加する傾向がみられます。そこで、休耕地を活用した野菜や米作りとその6次産業化ができる商業施設や公共施設の開設を目指し、また、地場産業である花卉栽培や造園業に関心を持つ若者を行政と民間が協働し、受け入れる体制を促進することで、活気あふれるまちづくりを目指すことができます。

対策5 市街化調整区域の一部を慎重に外すことで、子育て世代の移住を促進する

市街化が進む郡川地区の子ども数は相対的に減少傾向が小さいです。したがって、活気あるまちづくりを目指すためには、行政と住民が慎重に話し合って協働することで、一部の市街化調整区域を外すように努力が必要であるという意見もあります。そこで、まちづくり協議会が主体となり、行政や住民が話し合いながら、市街化調整区域の一部を慎重に外すことで、子育て世代の移住を促進することを目指すことができます。

